

楊希中

七丁

楊寶

八丁

荀巨伯

九丁

安良賣

十丁

梶原景久

十一丁

元石夫妻

十二丁

韓琦

十三丁

繪中德行流をくこ

○表盗

漢の表盗文帝の初はて忠直の望もこれよりか帝は
 明君と有る一と慎まんとするをうけりか一寢を起し
 りこれに怯まんとす所を自らたてりてびびりてこれに表盗を
 こそをえてこそを根をうけりか何程怯まんとす所を自らたてり
 させばこそ皇后と所を同じうせんと思ひてこれに表盗を
 立下りてこれより夫を面月とていひてこれに表盗を
 んとこれに表盗をあらうかこそはこれに表盗を
 あらうかこれに表盗をあらうかこそはこれに表盗を
 これに表盗をあらうかこそはこれに表盗を
 これに表盗をあらうかこそはこれに表盗を

あるれとすゆぐー君々々みはやとて高帝の威まんと寵を
しめと居座つてゆきぬひる相崩れなりて後威まんのよ
足の指とて耳とより鼻とて肛の中へこめて人衆と号け
さるるころに居て居座いふとてかき居座の二族もかうびり
とけしりさるやと練奏しりさる帝は還鑾とやうに慎
まふもふみはるどとてや

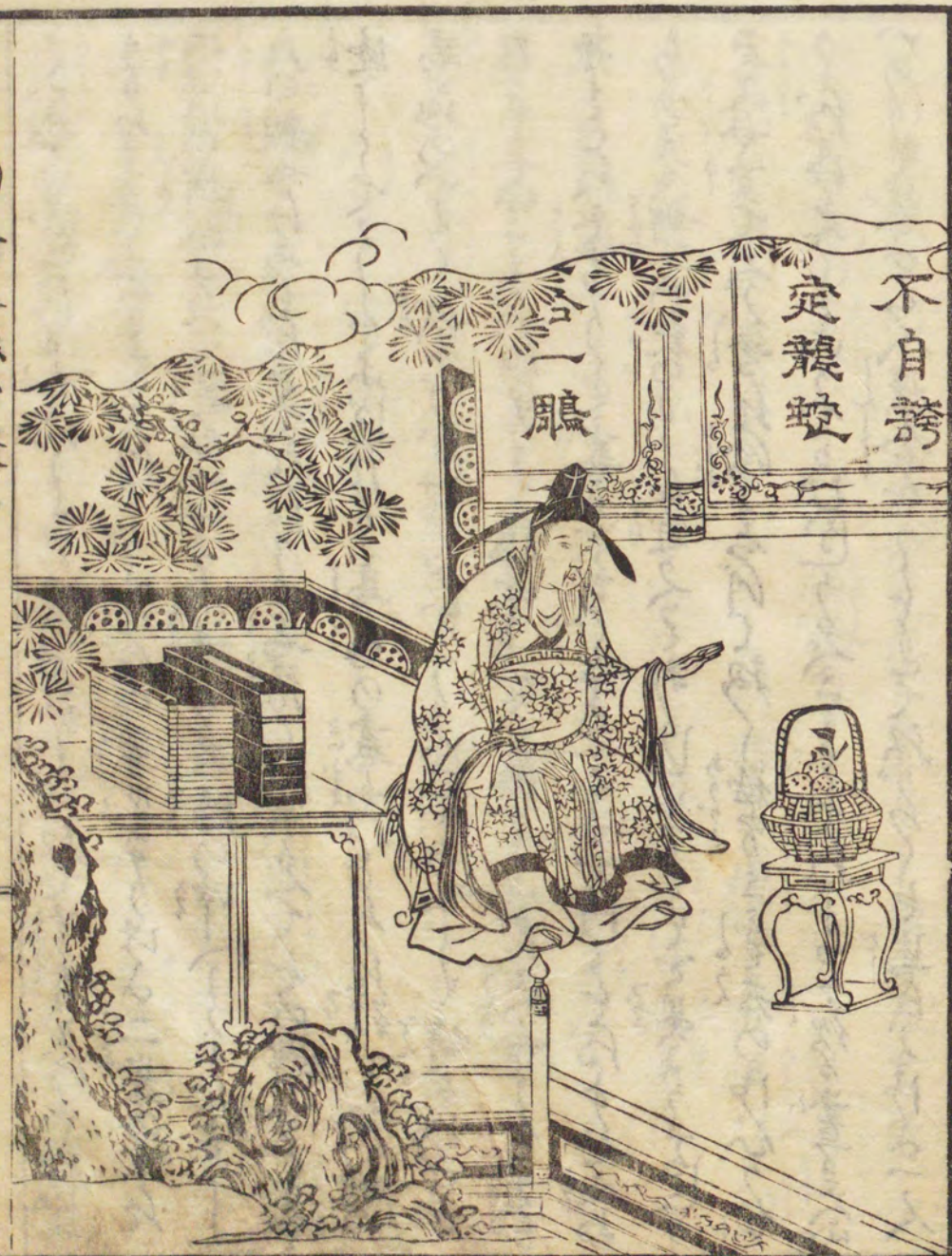
○賈郁

明の賈郁は仙遊の知縣なりし縣令の縁多しといふも見
ずから梨と持来てこれいぬるなり大なる梨とてゆき帝はなり
なもなふとてすけ相ふ奉さるるなり人なははははははは
べーとてなりとて賈郁望てさ方ふ人の方なり家も親大
あすこなり又さ方の子とてなりて来たり後漢の楊震は文

此知我知汝知るもて黄金と持来りてふとてこれと楊震が
に知るいふや今我知汝知るは又さ方これを知らぬとては古
人の思ふふいふの知る人ありとて梨とけさるる縣令は
恥入て持てさるや人の思ふもこれとて思ふたうとて
さる思ふたけんや人のたけしとて能なり後賈郁がけさるは
いさる菓子さるる好庭なりとて物とておまねるふれ
むとてこれとけさるはははははははははははははははは
だーとて梨と持てし所の事なりてし所の事なりとては
いさるも持てさるはははははははははははははははは
すべー

○馬鹿

宋の馬鹿は年に十歳なりてなりて男とて殺けけ玉とて



勝實に年達唐副使とて入唐一洗は帰約して大宰大貳は
任し後を國松土嶺と壘と爲し宝亨元年より美の押勝が送
意有と誅罪し功を叙して後之に勳等は諸大將も亦并獲二
年時風を以てはし獲ら大勳を以て終に一回に十力を大官に任し
近之に叙せしは宝龜元年致はとて許すは同六年十月
あは十三才を薨せし一生の大功を以て武散入唐して其業を
大宰寮に以て勳をかうなり城と壘に在り任して天下の政
と執りし六代の勳はして後唐百工の組と述するは其まこと
新所は後北の功有り君と作てくむむだり

○垂水廣信

後醍醐天皇の御宇は皆國多事郡主水村の住人廣信は孝定謹守
のさしを南朝の諸卿の經學は此に由るなり其時諸卿の末は庵

先生の四書の集注初ておぼし後アとるはて保洛園國の末と
流し帝女を或ひ多し朝政園に混じり依怙の所は故多じて
すのてを意と爲しと大宰大納を推通す能て凍より不終よ
用ひら後ててて里し帝に兄孫と後より農耕の業を以て其父礼
記と著しは軍權良親王及び義貞卿を氏とせしむる也
とてふ天年と今やて北朝の延文元年九十才とて没せ

○良峯少將

深草の院の御時良峯少將宗貞とて人あり性質溫雅風流の
と人々を有し少帝よりかく不敏の者と思はるあはすひ
りり帝崩御なりて沖義送の夜出家して乃方かくう勢
らとてりり目を經くのち大和の國御願寺に籠り居り其より
このおのの妻室くみあふふあふと上人は流るるこころは秋ま



良家のわね方なく、
一皮あそびびく身とけ果てて、
死にぬひのくも、
のういそ者のけりし、
けりしとて、
そとらふは、
居て物にげより、
うたうさうとて、
る言ふ初より、
はにらぬ果とて、
ありしつわふ、
そのうさうとて、

はにらぬ果とて、
のういそ者のけりし、
けりしとて、
そとらふは、
居て物にげより、
うたうさうとて、
る言ふ初より、
はにらぬ果とて、
ありしつわふ、
そのうさうとて、

○楊希仲

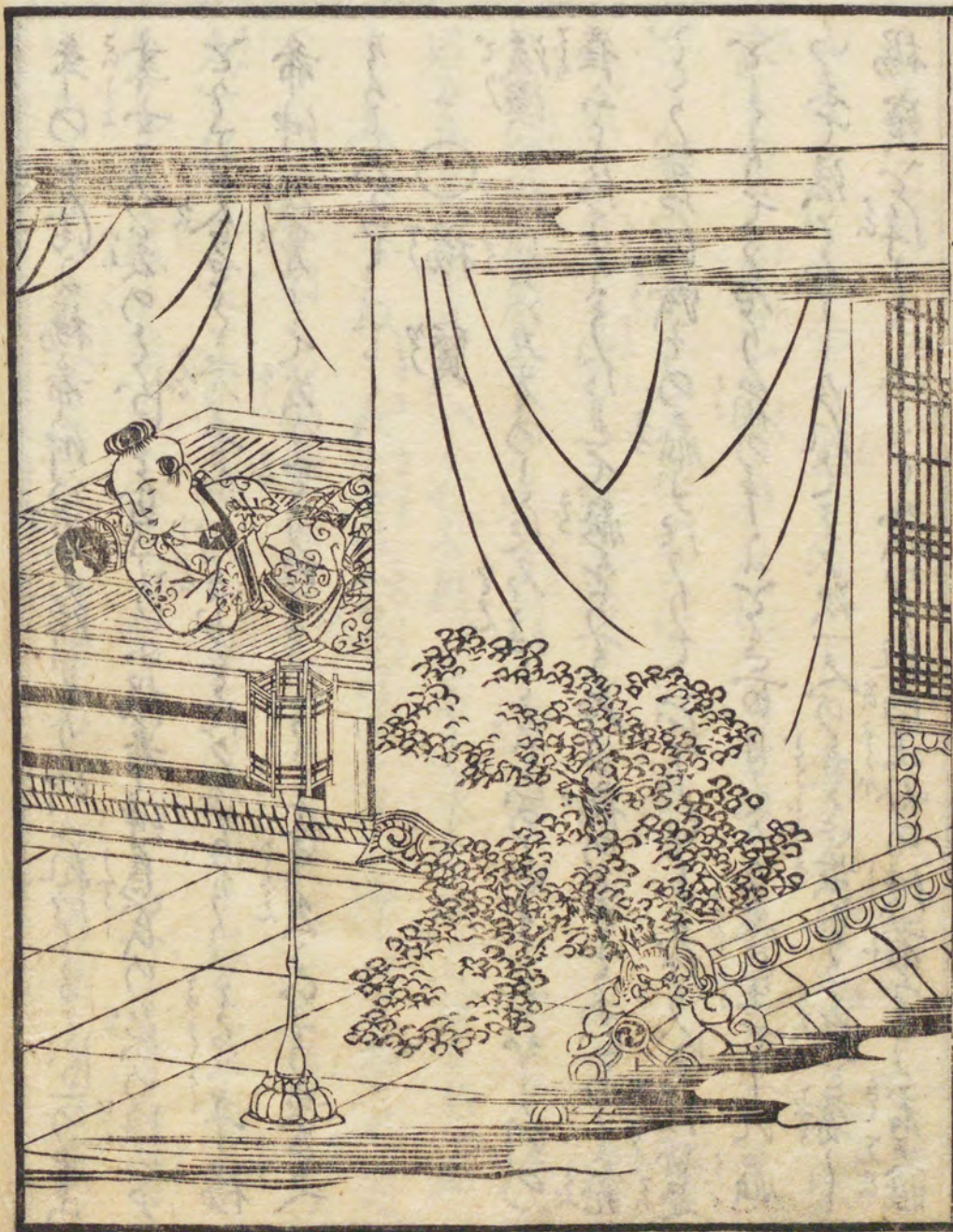
宋の楊希仲、
成都の經歷、
えより、
うて、
まゝ、
あり、
仲が、
うて、
まゝ、
あり、
仲が、

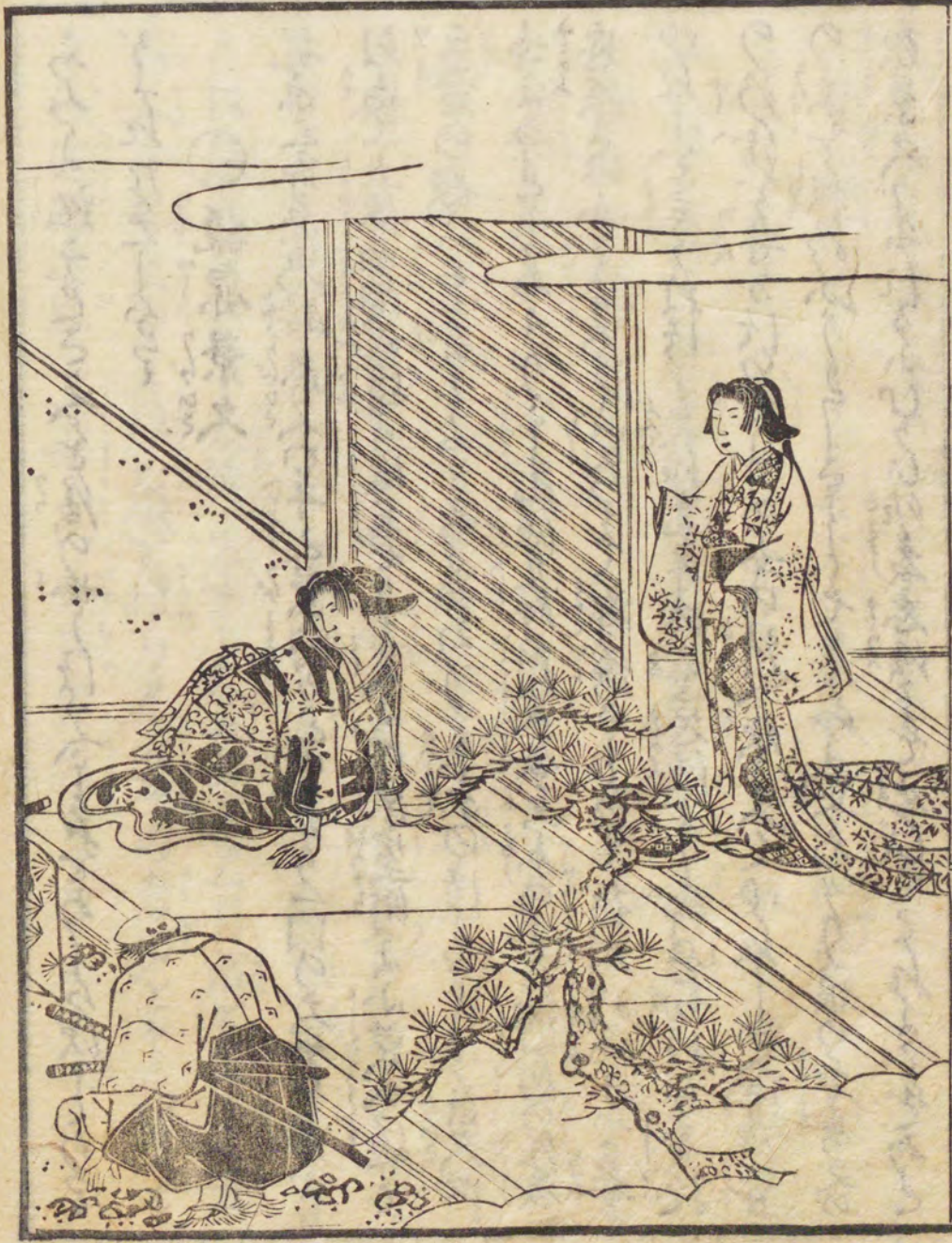
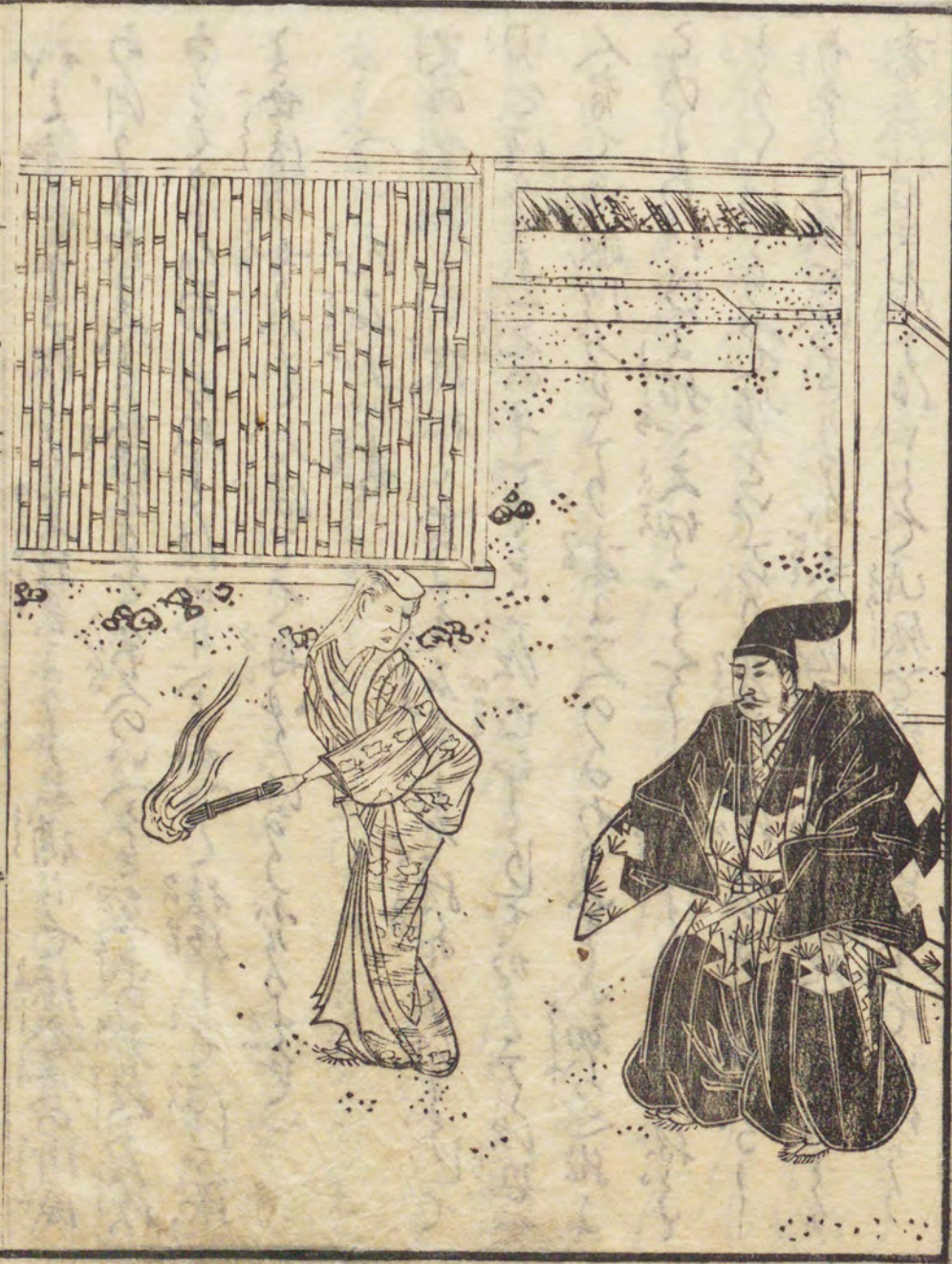
こづねの栢とせんまきせがく契とひとひのふとと
よふをほくせんはねふりうりあふと我定と妻深
家ふあふ貞女と年とたじくあをたふとととと
いふや天のふとにふあをたふととととととと
わふと契とふととととととととととととと
鬼神とれとととととととととととととととと
けふみのひとととととととととととととととと
うととととととととととととととととととととと
いつととととととととととととととととととととと
夫ととととととととととととととととととととと
めととととととととととととととととととととと
ふととととととととととととととととととととと

年のとととと楊希仲の家とととととととととととと
妻女とのあのとととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととと
希仲ととととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととと

○楊寶

後漢の楊寶の九才のとととととととととととと
雀ととととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととと
楊寶ととととととととととととととととととととと





我^{われ}と^てを^を下^{くだ}へ^しと^し是^{こゝ}に^に行^いき^まふ^もと^と也^{なり}補^{おぎな}は^はせ^せ縁^{えん}會^{かい}屋^やの^の所^{ところ}風^{ふう}
あ^あい^いう^うな^なま^まと^と私^{わたくし}決^{けつ}ま^まを^を糸^{いと}の^のい^いう^うを^を糸^{いと}の^の者^{もの}に^にあ^あは^はれ^れ
あ^あう^うこ^こし^しひ^ひの^のあ^あう^うと^とい^いか^かや^やあ^あう^うと^と接^{あひ}接^{あひ}して^{して}淨^{じやう}か^か潔^{けつ}
と^と世^よ道^{みち}の^の女^をり^りか^かと^と足^{あし}限^{かぎ}り^りて^て再^{また}け^けん^んの^のふ^ふり^りと^とせ

元石まが素

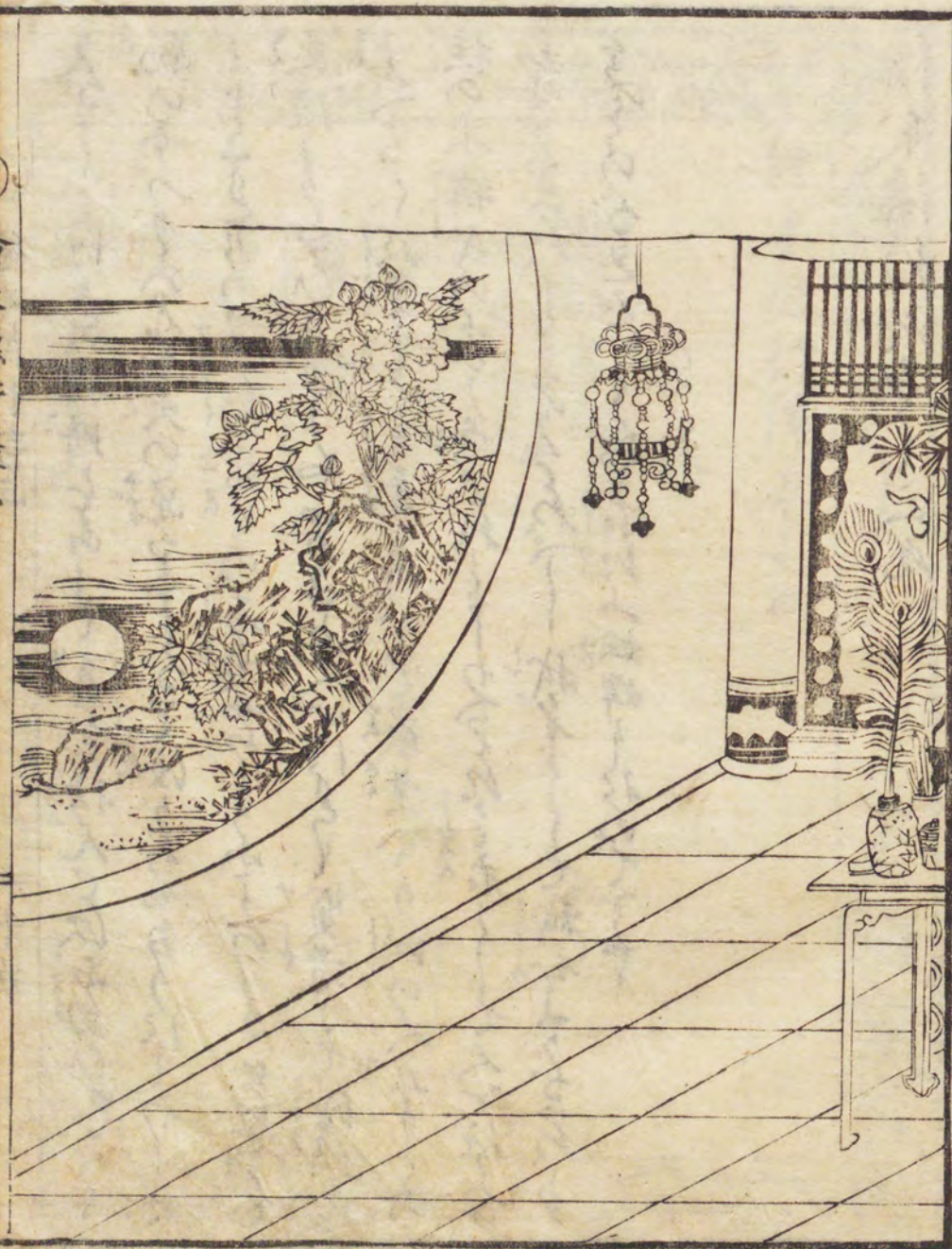
宋の常勅^{とく}東富村^{とうふむら}と云ふ元石^{げんせき}夫^そを^を母^{はは}に^にして
 田^いを^を与^{たま}ふ^ふ一^{ひとつ}之^の牛^{うし}と^とも^も次^{つぎ}已^いに^にして^{して}か^から^らず^ず次^{つぎ}母^{はは}
 人^{ひと}有^あて^て兩^{りやう}服^{ふく}に^にづ^づと^とり^り妻^{つま}と^と二人^{ふたり}の^のあ^あり^りふ^ふま^ま初^{はつ}に^に地^ぢ
 この^{この}より^{より}は^はひ^ひの^のは^は姑^こと^と切^きい^いと^とそ^そと^と船^{ふね}を^をり^りた^たと^と稱^{しょう}と^と
 と^とく^くは^はら^らふ^ふて^て姑^こを^をり^り孝^{かう}行^{かう}は^はら^らふ^ふた^たら^らひ^ひか^か
 ろ^ろと^とは^は飯^{いひ}と^と炊^たく^くら^らふ^ふ夫^その^の元^{げん}石^{せき}ま^まい^い用^{もち}は^はゆ^ゆて^て茶^{ちや}を^をと^とる^る
 書^かこ^こね^ねを^をよ^よむ^むら^らい^いと^とて^て飯^{いひ}と^と炊^たて^てて^てび^びき^きと^とて^て出^でる^る

[illegible]

多し物のあつたきりきり妻にうたてけりまはけ思はれ
 布のふろふき糸に井入りてふさふさうらふさうらうらうら
 糸は糸よりあつたきりきり妻にうたてけりまはけ思はれ
 お服ならきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 二人うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 見れどとれとれとれとれとれとれとれとれとれとれとれ
 うらふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 より涌出たりて年より糸けりて富きて田畠穀多かり
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 しうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 くれははははははははははははははははははははははは
 子持のありたりとて

○韓琦

宋の韓琦は定武の知縣とて氏と作ふ理北明断のまへ
 ちち且温和沈実の性なりあつたてふ半う付頼は書をよめり
 人と傳ふる者小燭をりてて書るはははははははははは
 眠て韓琦は韓とてれり韓琦はてりて消し文と書くと元
 のどく文とてれり文とてれり文とてれり文とてれり文と
 これとて者どもひげと焦せり書を責めりてお擲るんは
 韓琦これとててゆめりてててててててててててててて
 きててててててててててててててててててててててて
 次よりててててててててててててててててててててて
 ちや折うてててててててててててててててててててて
 こころとてててててててててててててててててててて



紅石竹行記

ふかしとけとへ韓所とつとを替へて次おきてい
物のやうなものを天の定まらぬとけうりなりとわ
とつとよりうりおののきやうふりうりまを
吏理よりいふや男ふ人いばと賢者をも徳の
まへく及第してき友のふて家業よりはの人立りの
桂の木韓氏の家へおのりわらうとて人となふ
ふよりふりしとてわらうとてわらうとてわらう
とてわらうとてわらうとてわらうとてわらう
とてわらうとてわらうとてわらうとてわらう

繪本徳行譚三

繪本徳行譚卷之四

目録

國栖高邦	初丁
同虎壽丸	口
衛致瑜妻	二丁
冀欽	凡丁
下道君首名	五丁
凍蕃	六丁